

職員による自己評価

A環境面

活動スペースは確保されており、設備のバリアフリー化もされている。
職員配置数も適切である。

B児童への支援内容

活動プログラムが固定されないよう、職員間でも児童とも話し合い計画している。
打ち合わせや記録も概ね取れており、振り返りも行われている。

C関係機関との連携

保護者とも連絡を取っており、学校等関係機関との連携も進めている。
医療的ケアが必要な児童が現在利用者にいないため、主治医等との連絡体制はない。

D保護者への説明責任・信頼関係

運営規定や支援内容の情報発信をしており、保護者同士の連携や情報交換の場として茶話会も開催し始めた。

保護者による評価

A環境面

活動スペースが充分確保できており、職員も適切に配置されている。
設備のバリアフリー化も概ねできている。

B児童への支援内容

活動プログラムは固定化されないよう工夫されている。
放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子供と接する機会はあまりないが、保護者からは必要ないとの意見もある。

C事業所からの情報発信

子供や保護者との意思疎通や情報伝達は日ごろから出来ている。
会報や苦情対応に関する体制の周知は行き届いていない。

D非常対応

非常時のマニュアルについては保護者への周知もまばらである。

事業所内での分析

【共通点】

環境面では職員、保護者共に概ね整っていると評価しており、活動プログラムでも工夫されていると共通の評価となっている。

児童の不断の様子に関しては保護者との連絡、情報伝達も出来ている。

【相違点】

保護者からの評価として非常時の体制や、会報、苦情対応に関しての周知等は十分といえない状態にある。

分析・検討してみて…

事業所の強み

児童への支援体制は設備、職員、プログラムなど整っており、個々の保護者との関わりも日ごろからできている。

事業所の改善点

保護者全体に向けた周知や情報の伝達は改善の余地がある。

事業所の改善への取り組み

情報提供の一環として、ブログの準備を始めている。
情報共有や周知の機会として茶話会も設け、定期的開催予定である。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

職員からも保護者からも児童支援の体制、環境が評価されていることはとても良い事だと感じている。
今後もより良い支援ができるよう励んでいきたい。
保護者の方々からは普段聞けない要望も聞くことが出来たので、これを機に改善していきたいと思う。